

HP Connect-It

ソフトウェアバージョン : 4.0

Active CMDBの実装

ドキュメントリリース日 : 29 April 2009
ソフトウェアリリース日 : April 2009



法的制限事項

Copyright Notices

© Copyright 1994-2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、コピーには、HPによる有効なライセンスが必要です。

FAR 12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

商標

- Adobe®, Adobe logo®, Acrobat® and Acrobat Logo® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, Windows Mobile® and Windows Vista® are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its affiliates.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

1. Active CMDBの実装	9
はじめに	9
問題点の詳細	10
Hewlett-Packard Active CMDBソリューションの第1段階	10
Active CMDBソリューションの実装	13
Active CMDBパッケージソリューションのテスト	20
付録A - Asset ManagerコネクタおよびServiceCenterコネクタの設定	34
付録B - Connect-Itログのメッセージ	35
索引	37

図の一覧表

1.1. ソリューションのワークフロー	21
-------------------------------	----

表の一覧表

1.1. HP Enterprise DiscoveryからAsset Managerへのマッピング	12
1.2. Asset ManagerからServiceCenterへのマッピング	12
1.3. ServiceCenterからAsset Managerへのマッピング	13
1.4. Asset Managerに追加されるポートフォリオ品目	22

1 Active CMDBの実装

Connect-Itシナリオを使用したActive CMDBソリューションの実装

はじめに

コンプライアンスは、確固としたビジネス慣行を繰り返し行うことが必要な企業にとって、ますます重要な要素になっています。あらゆる機能が完全に備わった **Configuration Management Database (CMDB)** を使用してハードウェアおよびソフトウェアの資産を追跡することは、コンプライアンスプロセスの重要な要素です。サーベンスオクスリー (SOX) の基準を満足するための作業は容易ではありません。大企業でのコンプライアンス作業は、何万時間もかかると予測される場合もあります。また、自社のIT能力を把握し、自社の業務処理からどのような影響を受けるかを完全に理解していることも必要です。そうでなければ、厳格なコンプライアンスに対応する厳格な方法で処理を進めることができません。どのような資産や構成アイテムを持っているかを理解するだけでなく、それらが業務にどのように関連しているかを理解することも欠かせません。

Active CMDBソリューションを実装すると、効率を改善してコンプライアンス要件を満たすと同時に、カスタマサービスレベルも向上させることができます。

Active CMDBの最も大きな利点は、おそらく、ServiceCenterとAsset Manager間でコアプロセスを統合できることです。Hewlett-Packardでは、Active CMDBソリューションの完全な統合が必要なことを認識しており、データがActive Configuration Management Database (Active CMDB) で一元化された単一プラットフォームの実装に向かって進んでいます。

問題点の詳細

データベース内の情報は、組織を日々運営していく上でも役立ちますが、それにも増して重要なのは、その情報を使用して知識と経験に基づいた決定ができることです。多数のアプリケーションと一意のデータストアがある企業環境では、共通のフレームワークを持つことが不可欠です。

Hewlett-Packard Active CMDBソリューションの第1段階

このソリューションは、ServiceCenterとAsset Managerに共通するデータベースリポジトリを実装するための第1段階です。このソリューションを実装すると、次の処理が可能です。

- Asset Managerのデータ検出プロセスで得られたデータでServiceCenterを更新する。
- デバイスの検出状態と実際状態について、不一致の調整を開始する。
- Asset Managerの変更管理や構成管理のデータに基づいて、ServiceCenterのデータを入力する。

このソリューションは、ITILの慣行に従うためにServiceCenterおよびAsset Managerを使用しているあらゆる場合に役立ちます。カスタマイズしたシステムとこのソリューションを統合する場合は、このパッケージの具体的なレベルを詳細に確認し、必要に応じて変更することを推奨します。例えば、Asset ManagerとServiceCenterのどちらかのシステムで、フィールド名が変更されたり、フィールドが削除されている場合は、Asset ManagerからServiceCenterへのマッピングを調整することが必要な場合もあります。

Active CMDBソリューションの概要

このソリューションは、Connect-Itの5つのシナリオに依存しています。

- 次の2つのシナリオは、ServiceCenterとAsset Managerとの間のデータ転送を同期させます。
 - acsc-ci.scn
 - scac-ci.scn
- 次の3つのシナリオは、Active CMDBプロセスを実行します。
 - edac-reconc.scnまたはpdiaac.scn
 - acsc-incident.scn
 - scac-wo.scn

Inventoryシナリオ

HP Desktop InventoryまたはEnterprise Discoveryのいずれかを選択する必要があります。

- **edac-reconc.scn**シナリオは、Enterprise DiscoveryデータベースのデータをAsset Managerに統合します。また、コンピュータのインベントリにリストされたメモリが、Asset Managerにリストされたメモリと異なった場合には、Asset Managerに照合更新提案を作成します。このシナリオは、自社特有の業務ルールを反映するようにカスタマイズされていることがよくあります。
- **pdiac.scn**シナリオは、Pergrine Desktop InventoryファイルのデータをAsset Managerに統合します。また、コンピュータのインベントリにリストされたメモリが、Asset Managerにリストされたメモリと異なった場合には、Asset Managerに照合更新提案を作成します。このシナリオは、自社特有の業務ルールを反映するようにカスタマイズされていることがよくあります。

Enterprise Discoveryを使用してAsset Managerのデータを統合する方が望ましいのですが、Connect-Itデータキットに含まれているのはHP Desktop Inventoryであるため、このマニュアルの以下のセクションでは、HP Desktop Inventoryの統合について説明します。

Asset ManagerからServiceCenterへのシナリオ

- **acsc-ci.scn**シナリオ：このシナリオは、Asset Managerの構成アイテムをServiceCenterに統合します。
- **acsc-incident.scn**シナリオ：このシナリオは、Asset Managerで照合更新提案が開かれたときにServiceCenterにインシデントを作成します。

ServiceCenterからAsset Managerへのシナリオ

- **scac-ci.scn**シナリオ：このシナリオは、ServiceCenterの構成アイテムをAsset Managerに統合します。
- **scac-wo.scn**：このシナリオは、ServiceCenterの変更とタスクに対応する作業指示をAsset Managerに作成します。

このシナリオは、ServiceCenterのデータをAsset Managerに移動します。ServiceCenterの変更とタスクに対応する作業指示がAsset Managerに作成されます。ServiceCenterで問題タイプがAsset Manager Reconciliation Proposalのインシデントが閉じられると、Asset Managerのコンピュータ、資産、モニタ、従業員の各レコードと照合更新提案が更新されます。

Active CMDBのデータフロー

Active CMDBソリューションには、Connect-Itデータフローの次のマッピングが含まれます。



注意:

カスタマイズされたシステムの場合は、これらのマッピングの変更が必要なことがあります。

表 1.1. HP Enterprise DiscoveryからAsset Managerへのマッピング

マッピング	説明
DeviceSrc-amComputerDst	Enterprise Discoveryによって収集されたインベントリデータのマッピング。 コンピュータのインベントリにリストされたメモリがAsset Managerにリストされたメモリと異なる場合は、このマッピングによりAsset Managerに照合更新提案が作成されます。
NetworkDevices-amComputerDst	ネットワーク装置に関連するデータのマッピング。
Non-Scanned-Computers-amComputerDst2	スキャンされていないコンピュータに関連するデータのマッピング。
Network-Devices Structure-amPortfolioDst	Asset Managerのポートフォリオ品目としての、ネットワーク機器コンポーネントのマッピング。

表 1.2. Asset ManagerからServiceCenterへのマッピング

マッピング	説明
amCompanySrc	会社のマッピング。 Asset Managerの会社は、その資格によりServiceCenterの会社とみなされます。
amLocationSrc	場所のマッピング。
amEmplDeptCrc-Employees	Asset ManagerからServiceCenterのContactテーブルへの従業員のマッピング。
amEmplDeptCrc-Departments	部署のマッピング。
amModelSrc-citModelDst	Asset ManagerのモデルからServiceCenterのイベントへのマッピング。
amComputerSrc-ICMcomputerDst	コンピュータのマッピング。
amComputerSrc-pcsoft-uninstDst	Asset Managerソフトウェアのマッピング。 ソフトウェアのアンインストールを扱うために、すべてのPCソフトウェアに削除済みのフラグが付けられます。
amSoftInstallSrc-pcsoftwareDst	ソフトウェアインストールのマッピング。
amAssetSrc-citDeviceDst	他のデバイスからServiceCenterのイベントへのマッピング。

マッピング	説明
amMonitorSrc-ICMdisplaydeviceDst	Asset ManagerのモニタからServiceCenterのICMdisplaydeviceへのマッピング。
amMonitor-citDeviceParentDst	デバイス関係のマッピング（上流資産）。
amStockSrc-citStockroomDst	倉庫からServiceCenterのイベントへのマッピング。

表 1.3. ServiceCenterからAsset Managerへのマッピング

場所	場所のマッピング。
部署	部署のマッピング。
連絡先	連絡先のマッピング。
operatorSrc-amEmplDest3	オペレータおよび時間レートのインポートのマッピング。
ベンダ	ServiceCenterのベンダをAsset Managerの会社としてマッピング。
ベンダの場所	ServiceCenterのベンダ場所をAsset Managerの会社としてマッピング。
stockroomSrc-amStockDst	倉庫のマッピング。
会社	会社のマッピング。
会社の場所	会社の場所のマッピング。
会社の部署	会社の場所をルート場所としてマッピング。
モデル	モデルのマッピング。
コンピュータ	'computer'タイプのデバイスのマッピング。
デバイス	コンピュータでもアプリケーションでもないデバイスのマッピング。
ソフトウェア	コンピュータにインストールされているソフトウェアのマッピング。
携帯機器	'handhelds'デバイスをコンピュータとしてマッピング。
メインフレーム	'mainframes'デバイスをコンピュータとしてマッピング。
joindisplaydeviceSrc-amMonitorDst	モニタのマッピング。

Active CMDBソリューションの実装

このActive CMDBソリューションは、Connect-It製品に付属する他のConnect-Itシナリオと同様に、サンプルのソリューションとして提供されています。提供されているコードとシナリオの内容を確認し、自社のカスタマイズ済みソリューションに正しく適合するかどうかをチェックすることを推奨します。提供されているコードとシナリオは、デフォルトの（デモンストレーション）データベースと実装状態で使用されることを想定しています。カスタマイズやデータ変更を行っていた場合は、このコードとシナリオをそのまま使用すると、何かから影響

を受けたり、何かに影響を及ぼす可能性があります。カスタマイズした環境で動作させるには、このソリューションの変更が必要なことがあります。

このソリューションは、特定のHP製品の組み合わせで動作するように設計されています。使用する組み合わせが、次のいずれかであることを確認してください。

- Asset Manager 4.4.x、ServiceCenter 6.1
- Asset Manager 5.0.x、ServiceCenter 6.1

このマニュアルに記載された手順は、Asset Manager、Connect-It、およびServiceCenterがそれぞれのデフォルトのインストールディレクトリにインストールされ、デモンストレーションデータベースに接続されていることを前提としています。別のディレクトリにインストールした場合に手順が影響を受ける場合は、その内容についてできるかぎり記述してあります。

各アプリケーションのデフォルトのインストールディレクトリは、次のとおりです。

- Asset Manager 4.4.0、4.4.1、または5.0 :

C:\Program Files\HP\Asset Manager\

- Connect-It

C:\Program Files\HP\ConnectIt\

- ServiceCenter 6.1 :

C:\Program Files\Peregrine Systems\ServiceCenter Client\

ServiceCenterの設定

Active CMDBソリューションを実装するには、付属イベントレコードでないイベントレコードをServiceCenterに追加する必要があります。このデータは、アンロード機能によりServiceCenterにインポートします。



注意:

セットアップを開始する前に、既存のServiceCenterデータベースをバックアップしておくことを推奨します。そうすることで、統合処理中に、データベースを確実に前の状態に戻すことができますようになります。

ServiceCenterへのActive CMDBイベントのインポート

- 1 システム管理者としてServiceCenterにログインします。
- 2 メインウィンドウのToolkitセクションから**Database Manager**を選択します。
- 3 右上隅の矢印をクリックまたは右クリックします。次に、ドロップダウンメニューの**Import/Load**をクリックします。

ServiceCenterへのAsset Managerイベントのインポート

- 1 Connect-It付属アンロードを選択します。
Connect-It :

```
[Connect-It Installation Directory]\datakit\sc[version]\cmdb.unl
```

- 2 上のツールバーで**Load FG**をクリックします。

ServiceCenterへのコンピュータイベントとソフトウェアイベントのインポート

- 1 右上隅の矢印をクリックまたは右クリックします。次に、ドロップダウンメニューの**Import/Load**をクリックします。
- 2 Connect-It付属アンロードを選択します。

```
[Connect-It Installation Directory]\datakit\sc[version]\pcsoft-uninstal.unl
```

- 3 上のツールバーで**Load FG**をクリックします。
- 4 右上隅の矢印をクリックまたは右クリックします。次に、ドロップダウンメニューの**Import/Load**をクリックします。
- 5 Connect-It付属アンロードを選択します。

```
[Connect-It Installation Directory]\datakit\sc[version]\pcsoftware.unl
```

- 6 上のツールバーで**Load FG**をクリックします。

Asset Managerの構成

Asset Managerのセットアップ処理には、デフォルトのデータベース構造を変更して、amWorkOrderテーブルからamAssetテーブルにRelNNリンクを追加する作業が含まれます。

注意:

セットアップを開始する前に、既存のAsset Managerデータベースをバックアップしておくことを推奨します。そうすることで、統合処理中にデータベース前状態に戻すことが必要になったときでも、確実に戻すことができます。

照合更新モジュールの有効化

Asset Managerの照合更新モジュール（デフォルトでは無効）を有効にするには、まずAsset Managerにログインします。**File/ Activate Modules**をクリックしてから、**Reconciliation**をクリックします。

Asset Manager 4.4 : amWorkOrderテーブルのRelNNリンクをamPortfolioテーブルに追加

Asset Manager 4.4データベースの場合は、amWorkOrderテーブルにリンクを作成しておかなければ、照合更新が正しく機能しません。

注意:

Asset Manager 5.0データベースは、このリンクを既に持っています。

- 1 スタート -> プログラム -> HP -> Asset Manager 4.4.x -> Asset Manager Database Administratorをクリックして、Asset Manager Database Administratorを開きます。
- 2 **File/ Open**をクリックしてから、**Open existing database**をクリックします。
- 3 Asset Managerデータベースサーバ、ログイン名、およびパスワードを適切に入力し、**OK**をクリックします。
- 4 amWorkOrderテーブルを選択し、**Database/ Add a link**をクリックします。
- 5 **New link**ウィンドウで、以下の情報を各フィールドに入力します。
 - Link type : RelNN
 - Source Table : amWorkOrder
 - Source SQL Name : Items
 - Source Label : Items
 - Description : Items
 - Destination Table : Portfolio items (amPortfolio)
 - Destination SQL Name : WorkOrders
 - Destination Label : WorkOrders
 - Destination Label : WorkOrders
- 6 **Create**をクリックします。
- 7 新規に作成されたリンクを表示するために、ページを追加します (**Database/ Add a page**をクリックします)。

Connect-Itの設定

Asset ManagerからServiceCenterへのデータの同期

Asset ManagerとServiceCenterの間でデータを同期させるには、以下の手順に従ってConnect-Itの付属シナリオを実行します。

シナリオの設定

Connect-It Scenario Builderツールを開きます。

File -> Openをクリックし、Connect-Itに付属するAsset ManagerからServiceCenterへのシナリオファイル（acsc-ci.scn）を選択します。このファイルは、デフォルトでは次の場所にあります。

ServiceCenter 6.1 :

[Connect-Itのインストール先フォルダ]\scenario\scac\sc61ac44\

Openをクリックして、シナリオを開きます。

Asset Managerコネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する詳細な手順は、「付録A」を参照してください。

ServiceCenterコネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する詳細な手順は、「付録A」を参照してください。

 **注意:**

このシナリオを実行したときに、Connect-Itログとターゲットコネクタのドキュメントログの両方にエラーが記録されることがあります。このようなエラーは、ほとんどの場合、ServiceCenterにデフォルトのイベントマップがないか（「付録B」を参照）、Asset ManagerとServiceCenterのデータが一致しないことが原因で発生します。イベントマップの修正方法の詳細については、ServiceCenterのマニュアルを参照してください。このようなエラーが発生しても、Active CMDBソリューションの機能には影響しません。このソリューションをデフォルトのシステムでテストすることが目的の場合は無視できます。

ServiceCenterからAsset Managerへのデータの同期

Asset ManagerからServiceCenterにデータを同期させるには、以下の手順に従ってConnect-Itの付属シナリオを実行します。

 **注意:**

下記のパスとフォルダは、バージョンがServiceCenter 6.1およびAsset Manager 4.4の場合です。使用しているServiceCenterとAsset Managerのバージョンに合ったシナリオを使用してください。

シナリオの設定

File/ Openメニューをクリックし、Connect-Itに付属するServiceCenterからAsset Managerへのシナリオファイル（scac-ci.scn）を選択します。このファイルは、デフォルトでは次の場所にあります。

[Connect-Itのインストール先フォルダ]\scenario\scac\sc61ac44\

Openをクリックして、シナリオを開きます。

シナリオを開いたら、ServiceCenterコネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する詳細な手順は、「付録A」を参照してください。

Asset Managerコネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する方法の詳細な手順は、「付録A」を参照してください。

ServiceCenterコネクタをクリックして選択します。Connect-Itツールバーの**Produce Now**アイコンをクリックして、シナリオを実行します。シナリオの変更を保存するかどうか尋ねられたら、**Yes**をクリックします。

 **注意:**

このシナリオを実行したときに、Connect-Itログとターゲットコネクタのドキュメントログの両方にエラーが記録されることがあります。このようなエラーは、ほとんどの場合、ServiceCenterにデフォルトのイベントマップがないか（「付録B」を参照）、Asset ManagerとServiceCenterのデータが一致しないことが原因で発生します。イベントマップの修正方法の詳細については、ServiceCenterのマニュアルを参照してください。このようなエラーが発生しても、Active CMDBソリューションの機能には影響しません。このソリューションをデフォルトのシステムでテストすることが目的の場合は無視できます。

Active CMDBシナリオの調整

Active CMDBの各シナリオは、自社固有のServiceCenter、Asset Manager、およびDDMI/PDIの設定を記述するに構成する必要があります。

ServiceCenterからAsset Managerへのシナリオ (scac_wo.scn)

- 1 Connect-It Scenario Builderツールを開いて、**File/ Open**メニューをクリックし、Connect-Itに付属するServiceCenterからAsset Managerへのシナリオファイル (scac-wo.scn) を選択します。

このシナリオは、デフォルトでは次の場所にあります。

`[[Connect-Itのインストール先フォルダ]\scenario\scac\sc61ac44\`

- 2 ServiceCenterコネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する方法の詳細な手順は、「付録A」を参照してください。
- 3 Asset Managerコネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する方法の詳細な手順は、「付録A」を参照してください。
- 4 シナリオ保存します。

Enterprise DiscoveryからAsset Managerへのシナリオ

- 1 Connect-It Scenario Builderツールを開いて、**File/ Open**メニューをクリックし、Connect-Itに付属するEnterprise DiscoveryからAsset Managerへのシナリオファイル (edac-reconc.scn) を選択します。

このシナリオは、デフォルトでは次の場所にあります。

`[[Connect-It Installation Directory]\scenario\ed\ed2ac44\`

または

[Connect-It Installation Directory]\scenario\ed\ed2ac50\

- 2 Enterprise Discoveryコネクタを設定します。
 - 1 Enterprise Discoveryコネクタを右クリックし、**Configure connector**をクリックして選択します。
 - 2 **Configure the connector**ウィザードが開きます。**Next**をクリックして、**Select connection type**ダイアログボックスを開きます。
 - 3 **MySQL (native)**接続をクリックして選択し、**Next**をクリックします。
 - 4 フィールドの値を次のように入力します。
 - **Server** : サーバへの接続に使用するポートを指定します。
 - **User** : ログインを指定します。すべての権限を持つadminログインを使用することを推奨します。使用するログインは、必須の読み取りおよび書き込み権限を持つ必要があります。ログインプロファイルはEnterprise Discovery Webユーザインタフェースで定義します。
 - **Password** : このログイン名のパスワードを指定します。
 - **Database** : 使用するデータベースの名前を指定します。デフォルト名はAggregateです。
 - 5 **Finish**をクリックします。
- 3 Asset Managerコネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する方法の詳細な手順は、「付録A」を参照してください。
- 4 シナリオ保存します。

HP Desktop InventoryからAsset Managerへのシナリオ

- 1 Connect-It Scenario Builderツールを開きます。**File/ Open**をクリックし、Connect-Itに付属するHP Desktop InventoryからAsset Managerへのシナリオファイルを選択します。

このシナリオは、デフォルトでは次の場所にあります。

[Connect-Itのインストール先フォルダ]\scenario\pdi\pdi8ac44\

- 2 Asset Managerコネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する方法の詳細な手順は、「付録A」を参照してください。
- 3 HP Desktop Inventoryコネクタを設定します。
 - HP Desktop Inventoryコネクタを右クリックし、**Configure connector**をクリックして選択します。
 - **Configure the connector**ウィザードが開きます。**Next**をクリックして、**Select a connection protocol**ダイアログボックスを開きます。
 - **Local/network files()**オプションをクリックして選択し、**Next**をクリックします。
 - **Select files or folders**パネルで、**Read folders**および**Read Sub-folders**オプションをクリックして選択します。

PDIコネクタのデフォルトフォルダを、次の値に設定します。

[Connect-Itのインストール先フォルダ]\datakit\pdi\pdi8\

- デフォルトのフォルダが正しくない場合は、その既存フォルダをクリックし、適切な場所を選択して変更します。**Finish**をクリックして、ウィザードを閉じます。
- 4 シナリオ保存します。

Asset ManagerからServiceCenterへのシナリオ

- 1 **Connect-It Scenario Builder**ツールを開きます。**File/ Open**をクリックし、**Connect-It**に付属する**ServiceCenter**から**Asset Manager**へのシナリオファイル (acsc-incident.scn) を選択します。
このシナリオは、デフォルトでは次の場所にあります。

[Connect-Itのインストール先フォルダ]\scenario\scac\sc61ac44\

- 2 **ServiceCenter**コネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する詳細な手順は、「付録A」を参照してください。
- 3 **Asset Manager**コネクタを設定します。システムと通信できるようにコネクタを設定する詳細な手順は、「付録A」を参照してください。
- 4 シナリオ保存します。

Active CMDBパッケージソリューションのテスト

Active CMDBソリューションを実装する手順が完了したら、テストを実行して変更内容を検証します。以下のテスト例を使用して、新しく導入した機能をチェックしてください。

注意:

ソリューションのこのテストは、**HP Desktop Inventory**シナリオに基づいていますが、**Asset Manager**と**ServiceCenter**の統合の場合は、**Enterprise Discovery**シナリオを使用することを推奨します。

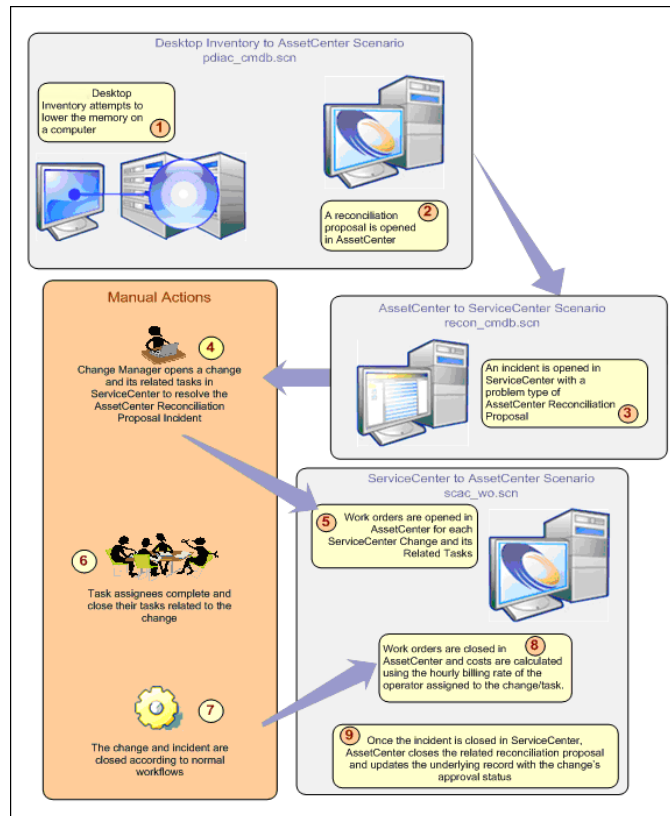
ソリューションの概要

下の図1に示すワークフローは、照合更新提案が**Asset Manager**で作成されるところから開始されます。このシナリオは、照合更新提案を開き、**ServiceCenter**で解決して閉じるまでのプロセス全体をたどります。以下のアクションがテストされます。

- **Asset Manager**で照合更新提案を作成する。

- 照合更新提案に関連するインシデントをAsset Managerで作成する。
- ServiceCenterの変更と変更のタスクに基づいて、作業指示をAsset Managerで作成する。
- 照合更新提案を閉じ、基になったAsset Manager内のレコードを更新する。

図 1.1. ソリューションのワークフロー



注意:

以下に、概要で説明したテスト例の詳細な手順を示します。この手順はできるだけ正確に従って、Active CMDBソリューションを実装するために変更した設定を十分に評価するようにしてください。

ソリューションのテスト例

Asset Managerでの照合更新提案の作成

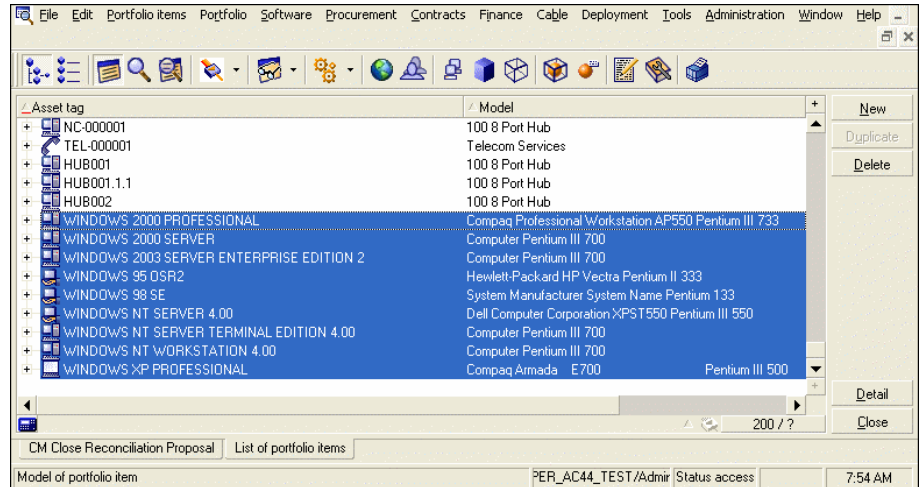
- 1 Connect-It Scenario Builderツールを開きます。
- 2 **File/ Open**をクリックし、次の場所にあるpdiac.scnシナリオファイルを選択します。

[Connect-Itのインストール先フォルダ]\datakit\pdi\pdi8\

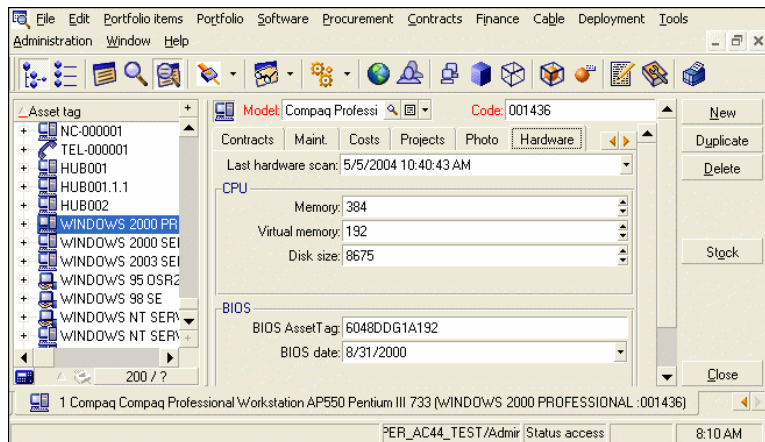
- 3 Connect-Itツールバーの**Produce Now** アイコンをクリックして、シナリオを実行します。
- 4 このシナリオにより、いくつかの新規ポートフォリオ品目がAsset Managerに作成されます。その品目を表示するには、Asset Managerを開きます。スタート -> プログラム -> HP -> Asset Manager 4.4.x -> HP Asset Managerをクリックします。
- 5 使用しているAsset Managerデータベースに関する情報を入力して、**Open**をクリックします。
- 6 ツールバーの  アイコンをクリックし、Portfolio Searchウィンドウで**OK**をクリックして、**Portfolio**テーブルを開きます。
- 7 このテーブルに、新規に作成されたポートフォリオ品目のリストが含まれています。検索またはフィルタを実行して、資産タグが付けられたレコードをPortfolioテーブルから探します。

表 1.4. Asset Managerに追加されるポートフォリオ品目

資産タグ	モデル
WINDOWS 2000 PROFESSIONAL	Compaq Professional Workstation AP550 Pentium III 733
WINDOWS 2000 SERVER	Computer Pentium III 700
WINDOWS 2003 SERVER ENTERPRISE EDITION 2	Computer Pentium III 700
WINDOWS 95 OSA2	Hewlett Packard HP Vectra Pentium III 333
WINDOWS 98 SE	System Manufacturer System Name Pentium 133
WINDOWS NT SERVER 4.0	Dell Computer Corporation XPST550 Pentium III 550
WINDOWS NT SERVER TERMINAL EDITION 4.0	Computer Pentium III 700
WINDOWS NT WORKSTATION 4.0	Computer Pentium III 700



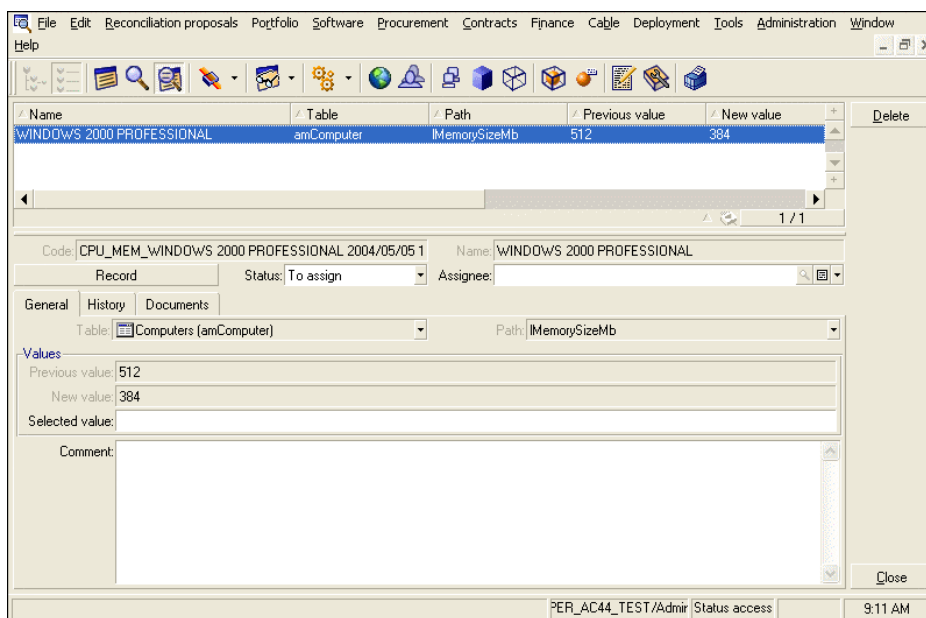
- 8 資産タグWINDOWS 2000 PROFESSIONALが付けられているポートフォリオアイテムを選択します。そのメモリを増やすため、**Hardware**タブをクリックして、**Memory**フィールドを384から512に変更します（下図を参照）。**Modify**をクリックして、値を保存します。



 **注意:**

HP Desktop InventoryからAsset Managerへのシナリオ（pdiaic_cmdb.scn）を次回実行すると、メモリの値が異なっているため、この資産の照合更新提案が作成されます。この変更により、ハードウェアの障害や取り外しが効果的にシミュレートされます。

- 9 Connect-It Scenario Builderツールに戻り、HP Desktop InventoryからAsset Managerへのシナリオファイル（pdiaic.scn）を開きます。
- 10 このシナリオを実行します（Connect-Itツールバーの**Produce Now** アイコンをクリックします）。
- 11 シナリオを実行したら、Asset Managerに戻ります。**Portfolio -> Reconciliation Proposals**をクリックして、照合更新提案のリストを開きます（この次の手順を参照）。
- 12 WINDOWS 2000 PROFESSIONAL資産の新しい照合更新提案がリストに追加されていることを確認します。



ServiceCenterでのインシデントの作成

- 1 Connect-It Scenario Builderツールを開きます。
- 2 **File/ Open**をクリックし、acsc-incident.scnシナリオファイルを選択します。このファイルは、デフォルトでは次の場所にあります。

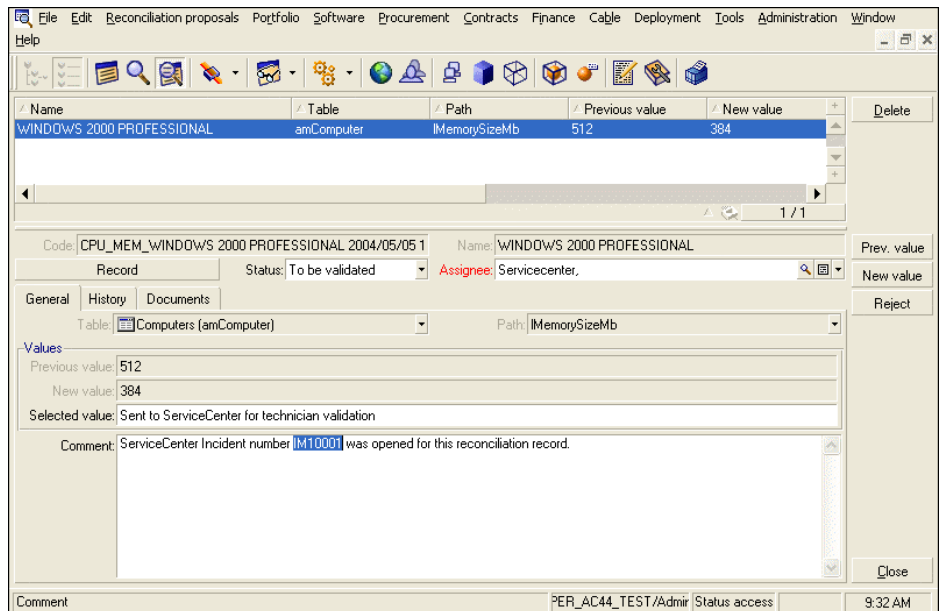
[Connect-Itのインストール先フォルダ]\scenario\scac\sc61ac44\

- 3 Connect-Itツールバーの**Start All Schedulers** アイコンをクリックして、シナリオを実行します。シナリオの実行が完了したら、もう一度**Start All Schedulers** アイコンをクリックして、ServiceCenterからインシデント番号を取得します。

 **注意:**

ServiceCenterからインシデント番号を取得するには、シナリオを少なくとも2回実行する必要があります。シナリオを初めて実行するときは、生成が遅い場合があります。

- 4 Asset Managerに戻り、WINDOWS 2000 PROFESSIONAL資産の既存の照合更新提案を表示します（下図を参照）。必要であれば、F5を押して表の表示を更新します。
- 5 ステータスが"To be validated"に変更されていること、およびAssigneeフィールドが"ServiceCenter"に設定されていることを確認します。Selected Valueは"Sent to ServiceCenter for technician validation"になり、コメントフィールドは"ServiceCenter Incident number xxxxx was opened for this reconciliation record"になっているはず（xxxxxは、ServiceCenterインシデントのID番号です）。
- 6 インシデント番号を記録します（この例の場合はIM10001）。このインシデント番号は手順8で使用します。



The screenshot displays the HP Connect-It Asset Manager interface. The main window shows a table with one entry: 'WINDOWS 2000 PROFESSIONAL' with a previous value of 512 and a new value of 384. Below the table, the record details are shown, including the status 'To be validated' and the assignee 'ServiceCenter'. The 'Selected value' is 'Sent to ServiceCenter for technician validation', and the comment is 'ServiceCenter Incident number IM10001 was opened for this reconciliation record.' The interface includes a menu bar, a toolbar, and a status bar at the bottom.

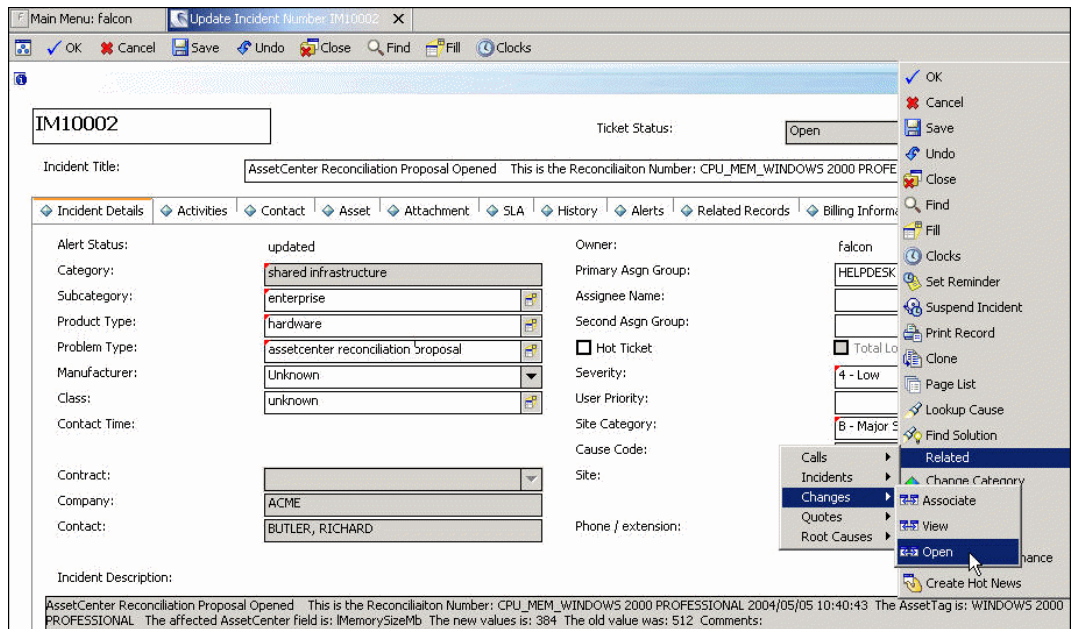
Name	Table	Path	Previous value	New value	Delete
WINDOWS 2000 PROFESSIONAL	amComputer	IMemorySizeMb	512	384	

Code: CPU_MEM_WINDOWS 2000 PROFESSIONAL 2004/05/05 1 Name: WINDOWS 2000 PROFESSIONAL
Record Status: To be validated Assignee: ServiceCenter
General History Documents
Table: Computers (amComputer) Path: IMemorySizeMb
Values
Previous value: 512
New value: 384
Selected value: Sent to ServiceCenter for technician validation
Comment: ServiceCenter Incident number IM10001 was opened for this reconciliation record.
Comment PER_AC44_TEST/Admin Status access 9:32 AM

- 7 システム管理者としてServiceCenterにログインします。**Services -> Incident Management**をクリックします。**Search IM Tickets**をクリックして、Incident Management Search画面を表示します（上図を参照）。
- 8 手順6で記録したインシデント番号をIncident Management Search画面のNumberフィールド入力します。ツールバーの**Search**オプションをクリックして、インシデントを検索します。
- 9 インシデントの内容を確認し、正しく作成されていることを検証します。Severity、Site Category、Contact、Activity Type、Activity Descriptionの各情報が入力されていることを確認します。**Save**をクリックします。

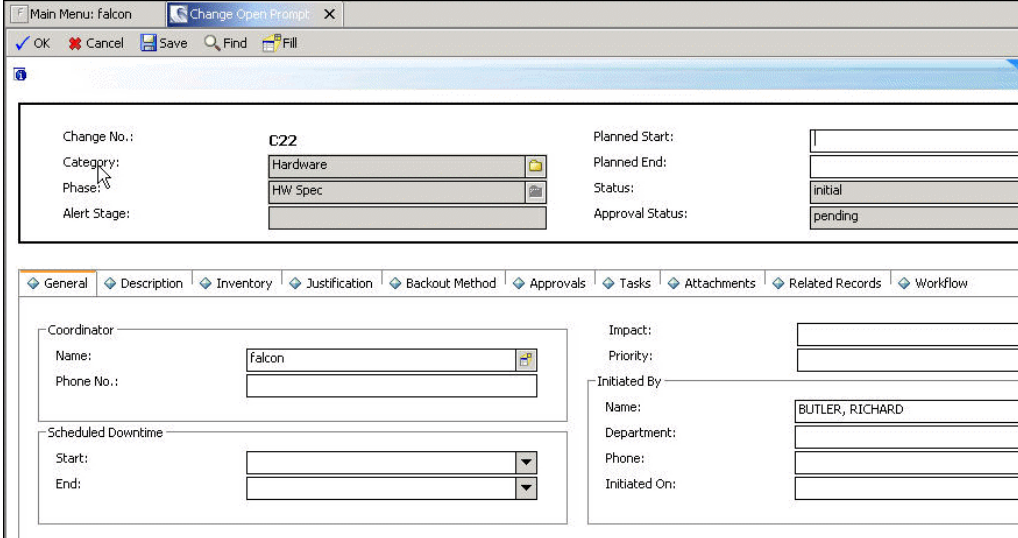
新しいインシデントからの変更依頼のオープン

- 1 インシデントを表示しているときに画面を右クリックしてコンテキストメニューを開き、**Related -> Changes -> Open**をクリックして、そのインシデントの新規変更依頼を開きます。



- 2 変更カテゴリを選択するように求められます。**Hardware**をダブルクリックして、新しいHardware Change Requestフォームを開きます（下図を参照）。
- 3 CoordinatorフィールドとInitiated Byフィールドに情報を追加します。
- 4 **Description**タブをクリックし、Description of Changeフィールドの情報を追加します。

- 5 **Associated CI** タブをクリックし、**Asset Information** セクションに **WINDOWS 2000 PROFESSIONAL** 資産のデータが表示されていることを確認します
- 6 **Save** をクリックし、変更番号を記録します（この番号は後で使用します）。**OK** をクリックします。



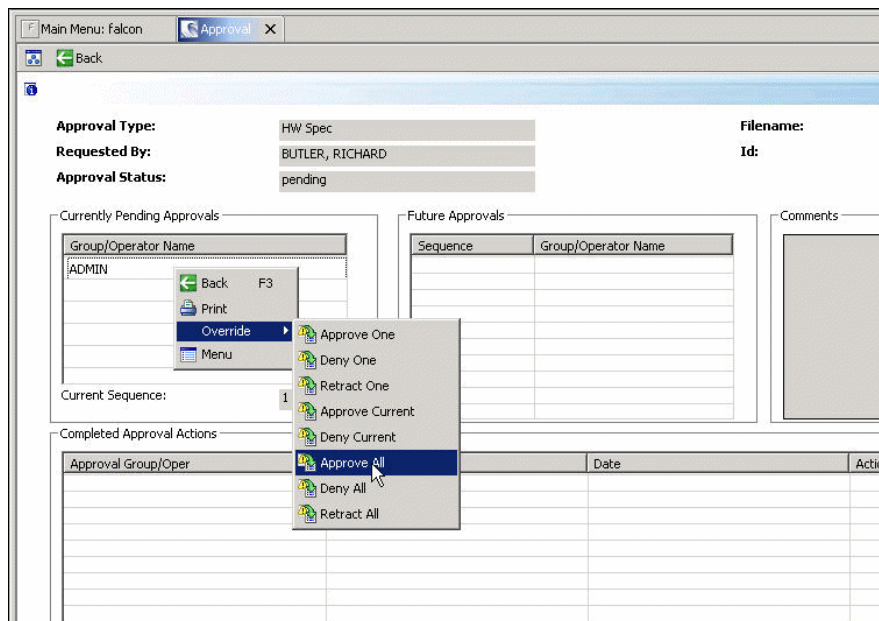
The screenshot displays the 'Change Open Prompt' dialog box. The top section contains fields for 'Change No.' (C22), 'Category' (Hardware), 'Phase' (HW Spec), and 'Alert Stage'. To the right, there are fields for 'Planned Start', 'Planned End', 'Status' (Initial), and 'Approval Status' (pending). Below this is a tabbed interface with tabs for 'General', 'Description', 'Inventory', 'Justification', 'Backout Method', 'Approvals', 'Tasks', 'Attachments', 'Related Records', and 'Workflow'. The 'General' tab is selected, showing fields for 'Coordinator' (Name: Falcon, Phone No.), 'Scheduled Downtime' (Start and End), 'Impact', 'Priority', and 'Initiated By' (Name: BUTLER, RICHARD, Department, Phone, Initiated On).

- 7 変更を閉じたら、**Update Incident** フォームが表示されます。**Related Records** タブをクリックし、**Changes** タブをクリックして、先ほど作成した変更がリストに表示されていることを確認します。**Change Request** をダブルクリックして、再び開きます。

変更依頼の承認

- 1 変更依頼を開いた状態で、**Approvals** タブをクリックします。承認アクションが1つ表示されているはずですが、このタイプは **HW Spec** で、ステータスは保留中のはずです。
- 2 **HW Spec** エントリをダブルクリックして、承認レコードを開きます（下記を参照）。

- 承認レコード内を右クリックし、**Override->Approval All**をクリックします。変更依頼に戻ります。**Save**をクリックします。



変更依頼の実装タスクのオープン

- Tasks**タブをクリックします。右クリックし、**Open New Task**をクリックします。**HW Maintain**カテゴリをダブルクリックします。
- 新規タスクフォームが開きます。**Assigned To**グループの名前フィールドに**BOB.HELPDESK**と入力します。

注意:

BOB.HELPDESKは、その付属オペレータレコードに請求レートが定義されています。このタスクを、別のオペレータを選択して割り当てる場合は、そのオペレータに請求レートが定義されていることを確認してください。定義がない場合は、対応するAsset Managerの作業指示についてコストが計算できません。

- Scheduled Downtime**セクションに開始値と終了値を入力します。
- 後で検証できるように、タスク番号を記録します。
- Save**をクリックします。

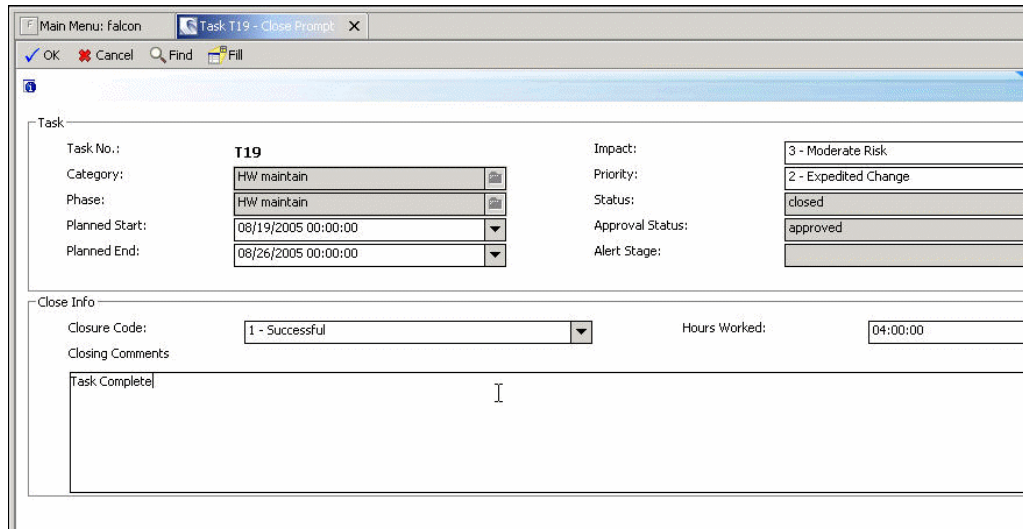
これで、タスクが作成されました。オペレータは、この時点でタスク解決に関連する作業を実行し、タスク画面に戻って、タスクを閉じます。

ServiceCenterでタスク、変更依頼、およびインシデントを閉じる

- 1 ServiceCenterでタスクを開いた状態で、ツールバーの**Close**をクリックします。
- 2 終了情報を次のように入力します。

注意:

Hours Worked情報は、hh:mm:ss形式で入力してください。そうすることで、Asset Managerがコスト情報で適切に更新されます。



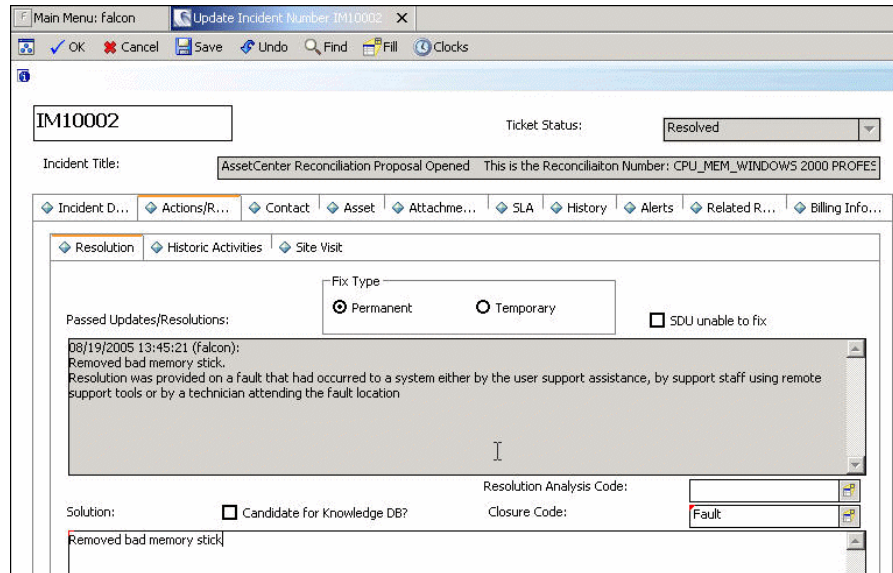
The screenshot shows a dialog box titled "Task T19 - Close Prompt" with the following fields and values:

Task	
Task No.:	T19
Category:	HW maintain
Phase:	HW maintain
Planned Start:	08/19/2005 00:00:00
Planned End:	08/26/2005 00:00:00
Impact:	3 - Moderate Risk
Priority:	2 - Expedited Change
Status:	closed
Approval Status:	approved
Alert Stage:	



Close Info	
Closure Code:	1 - Successful
Hours Worked:	04:00:00
Closing Comments:	Task Complete

- 3 **OK**をクリックして、変更レコードに戻ります。
- 4 **Tasks**タブをクリックし、タスクがリスト内に表示されなくなったことを確認します。
- 5 **Save**をクリックし、変更レコードのツールバーの**Close**をクリックします。
- 6 終了情報を入力します。（Hours Workedフィールドは、hh:mm:ss形式で入力してください。）
- 7 **OK**をクリックして、変更を閉じます。
- 8 関連するインシデントに自動的に戻ります。**Activities**タブをクリックし、**Corrective Action Type**の値をクリックして選択し、**Corrective Action**の説明を入力します。

- 9 ツールバーの**Close**アイコンをクリックします。
- 10 **Resolution**タブが表示されます（下図を参照）。**Fix Type**フィールドの**Permanent**をクリックして選択します。
- 11 Closure Codeドロップダウンで**Fault**をクリックして選択します。
- 12 Solutionフィールドに**Removed bad memory stick**と入力します。
- 13 **Save**をクリックします。"Outage Confirmation"画面が表示されます。Outage Start TimeとOutage End Timeに値を入力して、**OK**をクリックします。

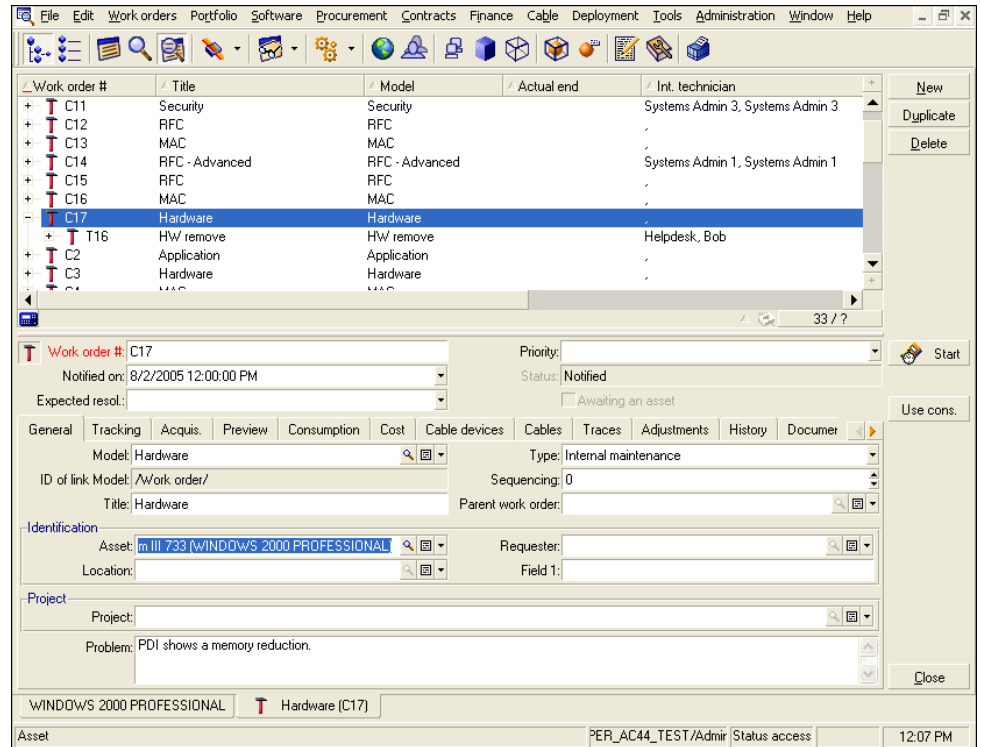


Asset Managerでの作業指示の作成

- 1 Connect-It Scenario Builderツールに戻り、ServiceCenterからAsset Managerへのシナリオファイル（scac-wo.scn）を開きます。
- 2 ServiceCenterをクリックし、Connect-Itツールバーの**Produce Now** アイコンをクリックして、シナリオを実行します。
- 3 シナリオが完了したら、Asset Managerに戻ります。Asset Managerツールバーの  アイコンをクリックして、Work Ordersテーブルを開きます。Filter Work Ordersウィザードで、Finishをクリックします。
- 4 ツールバーの  アイコンをクリックして、ツリービューに切り替えます。
- 5 先ほどServiceCenterで開いて閉じた変更の作業指示を探し、シナリオが正しくできたことを確認します。これは、変更作業指示の子オブジェクトとして

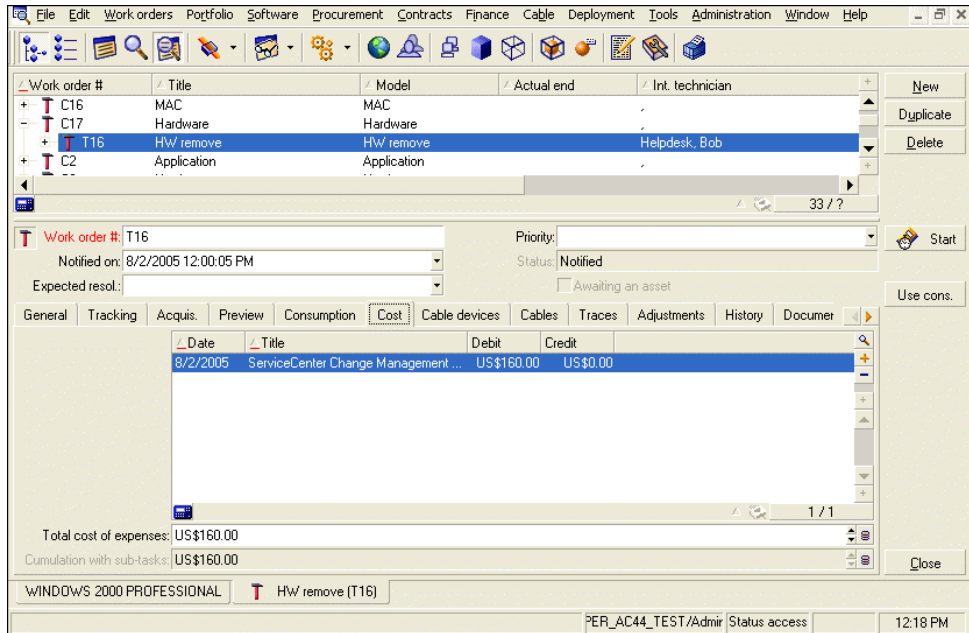
配置されています。下図に示す例では、変更C17に関連タスクT17があります。

- 6 Assetフィールドに、元のインシデントの一部として入力されたWINDOWS 2000 PROFESSIONAL情報が表示されていることを確認します。



- 7 変更作業指示アイテムを展開して、閉じたタスクの作業指示を探します。タスクの作業指示をクリックして選択し、それに関連する情報を開きます。

- 8 **Cost**タブをクリックし、経費行を表示します（図21）。Total Cost of Expensesが、ServiceCenterに入力された情報に基づいて正しく計算されていることを確認します。



照合更新提案を閉じ、基になったレコードを更新する

- 1 **Portfolio -> Reconciliation Proposals**をクリックして、照合更新提案リストを開きます。
- 2 先ほど閉じたAsset Managerインシデントに関連する照合更新提案をリストから探します。
- 3 照合更新提案のステータスが"Validated"に設定され、"Selected Value"のメモリ値が正しく（384に）設定されていることを確認します。また、右側のUse New Valueなどのボタンが表示されていないことを確認します。重要：ServiceCenterで変更が承認されていた場合、Selected Valueは新しいメモリ値に設定されます。変更が拒否されていた場合は、Selected ValueがReject the Reconciliation Proposalに設定されます。変更レコードをまったく開かずにServiceCenterのインシデントが閉じられていた場合、Selected Valueは旧のメモリ値に設定されます。
- 4 Recordをクリックし、**Hardware**タブをクリックします。基になったレコードのメモリが変更されていないことを確認します。この値は、HP Desktop InventoryからAsset Managerへのシナリオ（pdia.scn）を次回実行するまで

更新されません。Closeをクリックして、Reconciliation Proposalテーブルに戻ります。

- 5 Connect-It Scenario Builderツールに戻り、HP Desktop InventoryからAsset Managerへのシナリオファイル (pdia.scn) を開きます。
- 6 このシナリオを実行します (Connect-Itツールバーの**Produce Now** アイコンをクリックします)。このシナリオを再度実行すると、検証された照合更新提案に関連付けられている基になったレコードが更新されます。
- 7 Asset Managerに戻り、照合更新提案レコードを選択して、**Record**をクリックし、**Hardware**タブをもう一度チェックして、メモリが384に変更されていることを確認します。
- 8 これで、Active CMDBのパッケージソリューションのテスト例は終了です。このパッケージを本稼働環境に実装する前に、自社および自社のニーズに対して適切な追加テストを実行してください。

シナリオのスケジュール設定

開発環境でのパッケージシナリオのテストが完全に終了したら、そのシナリオを本稼働システムで定期的に行うようにスケジュールします。その頻度は、データをタイムリーに更新するために必要で、かつシステムのパフォーマンスに悪影響を与えない範囲にすることを推奨します。

更新スケジュールを設定する場合のパフォーマンスに関する検討事項

HP Desktop Inventory (pdia.scn) シナリオは、新規に見つかったインベントリファイルに含まれるデータをHP Desktop InventoryからAsset Managerに移動します。数多くの新しいインベントリファイルを通常の営業時間帯にインポートすると、Asset Managerのパフォーマンスがかなり低下する場合があります。そのようなことがあるため、Hewlett-Packardでは、すべてのシナリオを1日に4、5回に実行するようにスケジュールして、Asset ManagerおよびServiceCenterシステムを確実にタイムリーに更新することを推奨しています。

結論

データベースの情報は、組織を日々運営していく上で役立ちます。順調に運用するには、正確で信頼できる情報が鍵となります。情報を利用することで、サービスを提供し資産を管理する個々のプロセスを監視し、制御することができます。Active CMDBは、次の目的で使用します。:

インシデント、問題、および変更を開き、更新し、閉じるために必要な合計時間を短縮する。これは、インフラストラクチャ全体の最新の状態が表示されることで実現されます。そうして、サービスの提供に関係する資産およびその資産間の関係を、あらゆる問題や変更のたびに調査することが避けられます。

プロセスおよび記録データを組織全体で標準化し、CMDB内の情報の正確性を向上させる。これにより、意思決定とプロセスの決定を、正確で矛盾のない品質の高い情報に基づいて行うことができます。

改善を継続するというITILの考え方に従う。そうすることで、効率性を確保し、価値を最適化し、顧客に提供するメリットにコストを合わせることができます。これは、個々のプロセスにとって重要な重要業績評価指標（KPI）を定義し、そのKPIをCMDBの正確なデータに基づいて評価することでのみ実現できます。

ITILのプロセスおよびサービスは、段階的なアプローチを取り、CMDBに入力するデータをそのプロセスをサポートするために必要なデータでのみに限定する場合に最もうまく展開できます。この方法は、あらゆることを対象にCMDBを構築してからプロセスを展開する方法より実際的です。

Hewlett-Packard Active CMDBソリューションは、構成アイテムとその関係を管理するための基本的なITIL要件を提供することで、Configuration Management DatabaseのITILの概念を現実に移します。

付録A - Asset ManagerコネクタおよびServiceCenterコネクタの設定

Asset ManagerコネクタおよびServiceCenterコネクタは、使用環境内のシステムと通信できるように設定する必要があります。以下に、各コネクタの設定手順を示します。

Asset Managerコネクタの設定

- 1 Asset Managerコネクタを右クリックし、**Configure connector**をクリックします。
- 2 Configure the connectorウィザードが開きます。**Next**をクリックして、**Define connection parameters**パネルに移動します。
- 3 Asset Managerデータベースサーバ、ログイン名、およびパスワードを適切に入力します。
- 4 **Test**をクリックして、設定をテストします。テストが成功したら、**Close**をクリックします。Asset Managerがデータベースへの接続を閉じるまで、数秒間待ちます。
- 5 ウィザードの次のページで、**Expose the foreign keys of the tables**オプションを選択します。
- 6 次に、**Finish**をクリックして、ウィザードを閉じます。

ServiceCenterコネクタの設定

- 1 ServiceCenterコネクタを右クリックし、**Configure connector**を選択します。
- 2 Configure the connectorウィザードが開きます。**Next**をクリックして、**Define connection parameters**パネルに移動します。
- 3 ServiceCenterサーバ、ログイン名、およびパスワードを適切に入力します。
- 4 **Test**ボタンをクリックして、設定をテストします。テストが成功したら、**Close**をクリックし、**Finish**をクリックしてウィザードを閉じます。

付録B - Connect-Itログのメッセージ

Connect-Itシナリオを実行する場合は、その実行中にエラーを受け取ることがあります。このエラーは、ServiceCenterシステムをどのようにカスタマイズしているかで異なります。そのため、修正措置はこのパッケージに含まれていません。ただし、エラーを無視してもよいかどうかを判断できるように、この付録にはメッセージが記載されています。

- Processing event 'CTSRQOPN'...

摘要：名前 ('CTSRQOPN') は同じですが、連番が異なるイベントが既に存在します。このイベントは処理できないため無視されます。

説明：ServiceCenterで、このイベントに複数のシーケンスが関連付けられています。これは情報メッセージなので、CMDBシナリオの処理には影響しません。

- Processing event 'ICMExample'...

摘要：イベント'ICMExample'の構造コレクション型要素'scans'に関連付けられているテーブルまたはインクテーブル'joinexample'が見つかりません。

説明：ServiceCenterに付属するICMデバイスタイプ用のイベントマップサンプルに、参照される結合テーブルがありません。CMDBシナリオの処理には影響しません。

- Processing event 'SALESQUOTE'...

摘要：イベント'SALESQUOTE'に関連付けられたレコードが'event.map'テーブルにありません。

説明：関連するマップレコードがないイベント登録があります。CMDBシナリオの処理には影響しません。

- Processing event 'approval'

摘要：イベント'approval'の名前が、テーブルの名前と同じです。このイベントは処理できないため無視されます。

説明：DBDICTと同じ名前を持つイベント登録があります。CMDBシナリオの処理には影響しません。

- Processing event 'nmpmc'...

摘要：イベント'nmpmc'に対するイベントマップ'nm problem close'が無効です。フィルタ条件'evmap=\"nm problem close\" and evttype=\"output\"'に一致するレコードがServiceCenterにありません。

説明：イベントマップがないか、イベント登録プロパティに基づくフィルタ条件が不適切です。CMDBシナリオの処理には影響しません。